第九章　匪賊及び住民

第一節　概観

昭和十四年[illegible]頃の匪[illegible]

昭和十年（一九三五年）[illegible]満洲事変の勃発によ[illegible]て治安[illegible]が乱れ、旧東北軍[illegible]が治安の乱に乗じて解体したによ[illegible]て職[illegible]から離れた兵士[illegible]匪賊化したため、一時、満洲の匪賊数は膨大なものとなつた[illegible]が、その後、満洲事変以来、治安の回復と共に関東軍の行つた匪賊の討伐[illegible]のため、匪賊の数は極端に減少した。

しかし、匪賊[illegible]数の減少は伸び[illegible]満洲の[illegible]が、その[illegible]個人的についてみるならば、内外であつたとは言はれない。

昭和十四年の前半、満洲全部で僅か三千名[illegible]そに比例して治安がよくなつたとは言はれない。

昭和十四年の前半[illegible]頃まで残つて居た匪賊は[illegible]固[illegible]者ばかりであつて、数こそ減つたけれど、匪賊の勢力は[illegible]昭和十四年の前半が絶頂であつたと言ひ得る。

（一騎当千の猛者ばかりである。）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一款 匪賊と環境

其の一 匪賊の種類

匪賊をその性格の上から分類して見ると、土匪と、思想匪に、[redacted]思想匪は、(一)土匪、更に共産匪と抗日匪に區分できる。

土匪は、農村や商業商を襲撃または襲撃して金銀財宝を掠奪することを目的であるから、[redacted]治安を乱すことになるが、かゝる徒輩が居ったとて、整備上、齒牙にかける程の[redacted]であ[redacted]。その上、土匪は思想匪から[redacted]蔑視されて居るから、土匪が彼らの仲間で幅をきかすことは[redacted]ない。從って土匪に関する記述は省略することにする。

(二) 思想匪

思想匪には、[redacted]ソ聯邦の一環として赤化の一翼を担はんとする共産匪と、日本の対支戦争遂行を関東軍の後から攪乱して戦力を減殺し、行動を制肘しやうとする抗日匪と

全滿洲に分散して居るが、思想匪と異なり、主として中南滿の全達

また地域を根據にするものも多い。そして彼らは

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の二者があつて、眞に抱合を存在であつた。

彼らは、共に集団して行動し、日滿兩国に協力する者[redacted]を強迫したり、各種の施設などを襲撃して居た。[redacted]しなかつた。彼らは、決して一般住民を苦しめない。否寧ろ住民を圧迫する一部不良分子滿洲国官憲を襲うて、住民の味方であることを示し、[redacted]に日本軍部隊をも攻撃（待伏攻撃）して彼らの戰力が強大なことを誇示して、住民が彼らを尊敬し、彼らに協力するやうな仕向けて居た。

從つて彼らは、自らの行動を愛国運動と誇稱し、附近住民も亦さやうに信じて居た。我々が普通匪賊と呼んで居るのは、この思想匪のことであつて、これが滿洲の治安を乱して居た最大のものである。しかし、いかに思想匪であつても、武器や彈薬の補給がなく、[redacted]全くの独力で、長期間に亘つて日滿軍[redacted]に抵抗を持續することはできない。[redacted]、ゆゑに、外部からの援助があつた訳で、[redacted]その[redacted]、ソ聯邦であり、重慶政權であつた。

（操縦する者があつた。）

（陰に居つたものとそ）

（陰で）

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其の三 [redacted] 匪賊との関係

(一) ソ聯[redacted]と匪賊

昭和六年[redacted]の満洲事変以来、満洲に於けるソ聯邦の勢力は衰退の一途を辿うて居たが、ソ聯国内の肅正が畧、一段落を告げると、ソ聯の極東に対する国心は増大し、数次に亘る国境紛争事件（アムール河のカンチャズ事件、張鼓峰事件及びモンハン事件の外満洲国境警備隊及び以上の小部隊による越境事件など）、が頻発し、逐次満ソ両国の関係は極度に緊張して来た。

これに呼應するかのやうに、満洲国内の匪賊の活動もにはかに活潑となり、ソ聯邦に於て教育訓練された共産分子が、密かに越境して（主として文禄満以東及以南から）満洲国に入って活動を始めた。その中には逃亡を偽装して入国した者もある。

彼らは、濱江省と三江省の省境附近の山地、及間島省、吉林省、通化省内に蹣跚した。前者は北満省委を結成して、絶えずソ聯と連絡しつつ、北満洲に散在する匪賊に指令し、匪賊の行動を統一した。（如東北抗日聯軍が）

南満洲に[redacted]は間島、吉林、通化の三省を根據地とした南満省委[redacted]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0176

[redacted]、重慶政権に操縦せられる匪賊と[redacted]して、南満の治安撹乱を開始した。

ソ聯にそそのかされる匪賊には、鮮人[redacted]匪首とするものが多く、その尤なるものを金日成[redacted]、朴得範、[redacted]などを居る。これら匪首の年令を一瞥すると、どれもこれも三十才[redacted]の若者であることは、特に注意する必要がある。

就中、金日成は[redacted]朝鮮人間に多大の人気があり、彼を目して朝鮮の英雄と賞讃し、物心両面から[redacted]に援助する者が多いとの噂が多かった。

金日成がソ聯邦と密接な関係ありと断定した理由は、彼が関東軍の討伐に会ひ、満洲内に潜むことができなくなると、ゆず晩春北方地区からソ領に逃走し、討伐[redacted]ると再び満[redacted]厳然たる証拠があった[redacted]からである。

(納堂 光國山黒)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(四) 重慶政権と匪賊

在満匪賊が重慶政権と何かなる関係にあつたか、又は、金日成とソ聯のやうな確たる證據はない。(支那事変に中共が重慶と合体したため、重慶政権にはもつて中共も含むもの[redacted]と承知せられたい。)

たゞ彼ら匪賊が自ら、中国共産党と稱へ、中国政府の[redacted](指令をうけて)行動する[redacted]と宣言し、(共産党の)反満抗日を標榜して居たなどの点から、彼らと重慶政権[redacted]とは密接不離の関係にあつたものと推測するのである。

しかし、彼らは(金日成[redacted])ソ聯から武器や弾薬の供給を受けて居たやうな[redacted](なことはなく、)

更にいかに苦しくなつても、満洲から逃げる術もない。たゞ単に精神的の連繋があつたと想像する[redacted](説)である。

これら匪賊の頭目を列挙すると楊[redacted](靖)宇、陳翰章(曹亞範)、金光などで、金光を除く外は漢人であること[redacted]も、ソ聯に操縦せられる匪首と違う(が朝鮮人であつたの)所であり、また、これらの匪首が、全部殺害せられるか、進退窮つて投降したことも、前者と違う点であらう。

以上のやうに、ソ聯関係の匪賊と、重慶関係の匪賊とに区分したものの(実際問題になると)この

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0178

兩者は反滿抗日、関東軍を滿洲内に拘束する、而も関東軍の対ソ作戰の準備を妨害する点に於てソ聯も重慶も完全に一致して居たから、彼ら匪賊と一体となつて[redacted]治安攪乱をやつて居たやうである。

自然、

全く

陸軍

(納堂 光國出版)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其の三　匪賊[redacted]蹂躙[redacted]の情勢

匪賊の根據地[redacted]を眺めると、彼らは生存に便利なこと、日満軍官憲の討伐が困難なこと、[redacted]重要線路を脅威するのに[redacted]都合がよいことなどを考へて居たやうである。

生存に便利なことは物資が豊富でありかつ手が容易であることである。[redacted]、そのためには住民が匪賊に好意を[redacted]ねばならない。

日満軍官憲の討伐が困難にするためには鉄道や道路から相当離れた山地が適当であり、彼らの行動を容易にするためには、身の安全ばかり考へて居ない。[redacted]

以上の観点から、彼らの蹂躙地を観察することにする。

(一)　[redacted]蹂躙地域

全満洲に亘つて匪賊の蹂躙して居た地域を挙げると、北満では三江省の南部、勃利の西方牡丹江流域から老嶺山脈内一帯を根據

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

とする北満省委、北満省（東北抗日戸二路軍（総司令[redacted]は不明））、海倫東南方の山地帯、北安西北五大山附近[redacted]の地域、東安省の完達山嶺一帯を根城に（本溝洋省の東部地域であってそこ）遊動する匪賊[redacted]が主なもの[redacted]で、中南満では開島省、通化省、吉林省東半部の山岳地帯に蹂躙する南満省委と東北抗日戸一路軍（総司令楊靖宇）、牡丹江省の南部を遊動する匪賊（陳翰章）[redacted]が主なものであって、（昭和十四年初頃）[redacted]の[redacted]によると、総数は凡そ[redacted]千と稱せられて居た。

この外熱河省の西南方に於て[redacted]治安を乱す匪賊が居たが、これは実の所は匪賊と稱すべきものでなく、中共の八路軍が関東軍の背後を攪乱するため熱河省内に侵入したものであるから、北満地（中）南満の匪賊とは全く性格が違うものである。

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(二) 匪賊と住民

無住地帯[redacted]では匪賊の[redacted]に[redacted]ならない。たとへ、匪賊は無住の山地に住んで居ても、附近には必ず民家がある。[redacted]住民なしでは、匪賊は生存できない。附近の住民に庇護せられ、援助せられて、始めて生存できるのであつて、住民と匪賊とは密接不離な関係がある。[redacted]匪賊が定住して居る所、その附近の住民は必ず匪化されて居ると想つてよい。匪賊の一味と目して差し支へない。特に[redacted]人種[redacted]と匪賊との[redacted]関係については十分、承知して居る必要がある。間島者は朝鮮人の多い者であり、者民の八割は朝鮮人である。由来、満洲や沿海州に居る朝鮮人は不良、不逞、抗日の者が多かつた。彼らが満洲に移住した原因[redacted]を調査して見ると、李朝の悪政に疲労困憊し、安住の地を満洲に求めやうとした者や、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日本が朝鮮を併合したことを不満として満洲に逃れた者や、朝鮮人を悪事を働いたため、[illegible]に居ることができず、逃れて来た者などの子か、孫か、それともその本人かであるとのことである。

従って日本に対しても、満洲国に対しても、[redacted]よい感情を抱いて居ない。その上、彼らは満洲国ができ、満洲に対する日本の勢力が確立すると、張作霖時代以来[redacted]逃れて居るのが、やっと解放せられた気持になり[redacted]漢人[redacted]威張り出し[redacted]た。殊に間島省では、その傾向が強かった。

そこで満洲国が[redacted]国軍や警察[redacted]隊を派遣して鮮匪である金日成や朴得範や崔賢を討伐させようとすると、住民は朝鮮人匪情について何一つ提供しない。露営や炊事の用具も貸さうとしない。[redacted]満洲国に反って[redacted]挙兵の[redacted]列挙して関東軍に訴へる有様である。

かやうな状態だから鮮匪は多く間島省内を根城にして活動した。生活のためにも、安全のためにも、遊動するためにも、常に住民を味方にすることができたからである。

元来我々も鮮匪を討伐するためには、朝鮮人で特別に編成した部隊を指し向けることにした。

陸軍

(納棠 光國田黙)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

このため、所在の朝鮮人は[redacted]漢人で編成した部隊に対するやうな態度はとらなくなつた。（我不関の）

協力することはしなかつた。（寧ろ同胞の軍隊ができたことを喜び合つて大歓迎した。）

鮮匪の討伐にたゞ、漢匪の討伐には積極的に協力するやうになつた。

（三）作戦と蹂躙地

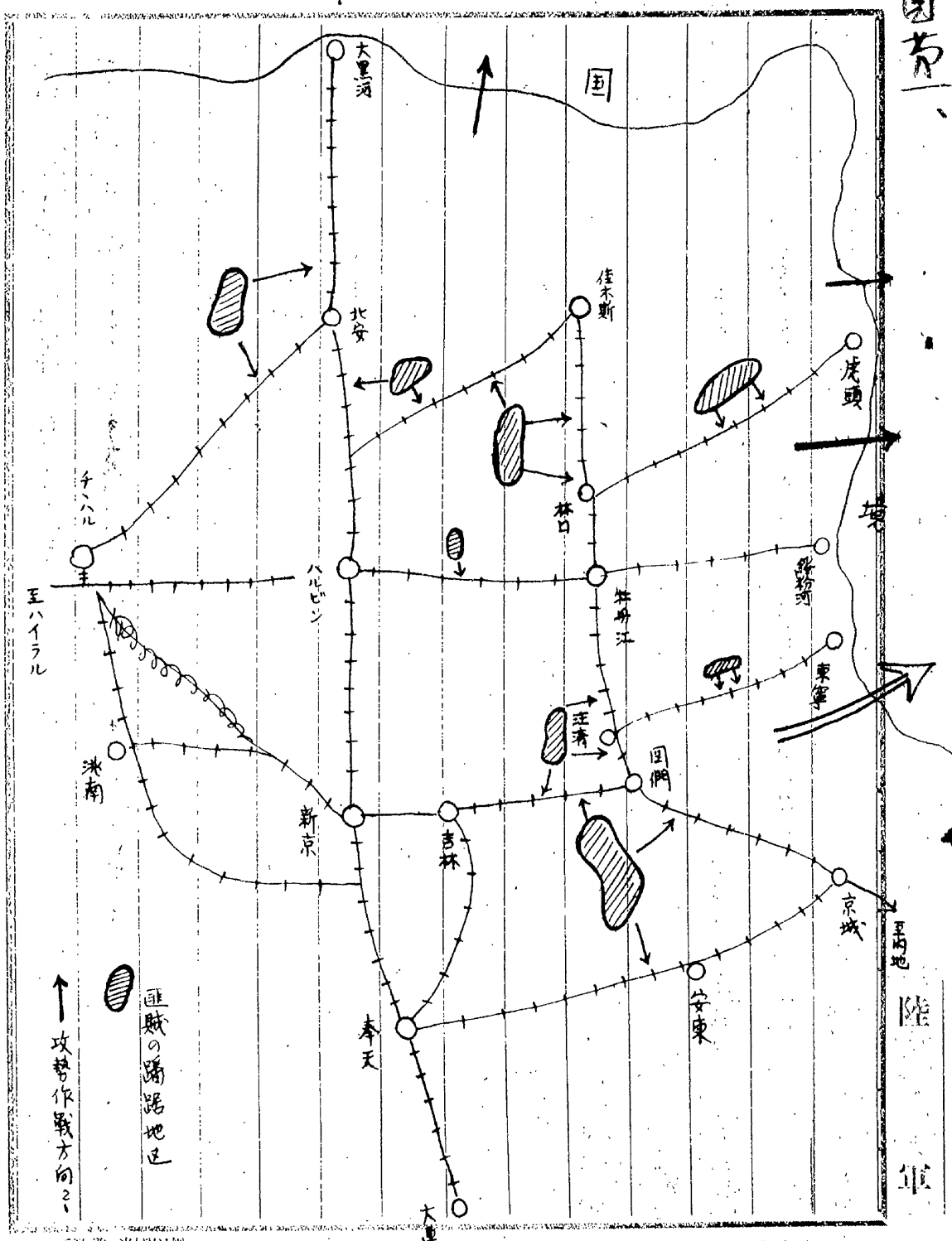
匪賊の蹂躙[redacted]地域を戦略的に観察すると、[redacted]興味深いものがあると思ふ。

作戦を企図する関東軍、特に主決戦場を東部地区と予定して居る関東軍にとつて見れば、匪賊が目ぼしい蹂躙して居ることは正に重大な脅威である。日ソ間に戦争が始まつた場合、匪賊のため、輸送動員が妨害される。集中輸送が遅滞する。兵力の移動や、兵員及軍需品の補給が妨げられる。関東軍に関する情報が手に入るやうにソ戦に通報せられる。理由は[redacted]を見れば、一目瞭然であらう。ソ聯邦と匪賊と一脈相通ずるもの[redacted]がある現況に於て、作戦[redacted]といふ場合、のことを思ふと心配でなりなかつた。ソ戦の謀略部隊を輸送幹線の側面に放置することと同じだからである。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

匪賊の蹂躙地区と関東軍の予想作戦方向との関係要図、

挿図第一、



陸軍

(納堂 光國山黙)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp